

広報

さよう 12

Vol.231
令和6年(2024)

人と地域 行政をつなぐ まちの総合情報誌

Sayo Town Public Relations



特集

町に高校があるということ

特集

町に高校があるということ

町には高校があるー。

今年で創立115年を迎えた兵庫県立佐用高等学校（以下、佐用高校）。多くの若者が夢を育み、進学や就職に向けて力を蓄える場として地域に貢献してきました。

一方で、全国的な人口減少の影響は佐用高校にも押し寄せています。かつて1,500人近くいた全校生徒も、今年度は約400人にまで減少し、定員に満たないクラスも増えてきました。県内では、統合が進む高校もあり、西播磨地域の高校にも将来的に統合の波が訪れる可能性が高まっています。

もし、町から佐用高校がなくなったらー。

「町に高校がある」ということを、当たり前だと感じていませんか？通学する高校生の姿や、学校から響く部活動の活気ある声。そんな日常の風景が、実は地域にとって大きな役割を果たしています。

佐用高校が果たしてきた役割は、今も変わらず続いています。今月号では、ともに歩んできた歴史を振り返り、「町に高校があるということ」の意義を考えます。



設立の経緯を見ると、町に「学びの場」を持つことは、当時の町民の熱い願いと大きな期待に込められていたことが伺えます。

戦後の佐用高校には、県下唯一の昼間定時制が設置され、多様な背景やニーズを持つ生徒に教育機会を提供してきました。その後、定時制は廃止されましたが、普通科、農業科、畜産科、家政科、地域開発科など特色ある学科を擁した総合制高校として、県内外でその名を知られるようになりました。

幕末まで六藩に分割統治され、横の連絡のなかった佐用郡が、新しい教育機関を創立したことにより、郡内全域から有能な青年を一堂に集め、勉学と実習に励み、寝食を共にした3年間の研さんは、佐用郡の産業発展の糸口を開くこととなった。また、現在実施している広域行政の端緒をつくり、佐用郡の産業発展史に不滅の光明を放っている。『佐用町史』抜粋

郡民の熱い願いと大きな期待で開校した「学びの場」

佐用高校の前身として、明治42年に佐用坂で開校した「佐用郡立農蚕学校」。この学校の創立の功績は、『佐用町史』にこう記されています。

年度	出来事
明治39	佐用郡蚕糸伝習所として設立
明治42	佐用郡立農蚕学校開校
大正3	現在の佐用町長尾に校舎を新築
大正11	兵庫県立佐用農蚕学校に校名変更
昭和23	兵庫県立佐用高等学校に校名変更
昭和24	定時制課程併設、分校を平福及び三日月に設置
昭和25	全日制に普通科、家庭科を併設
昭和26	生徒歌「塔陵健児」を制定
昭和36	定時制に農業科、家庭科を設置
昭和38	新校舎完成
昭和42	校歌制定
昭和43	定時制平福、三日月分校を中心校に統合
昭和44	普通科が5学級に
昭和53	家庭科を家政科に科名変更
昭和54	全日制に地域開発科を設置
昭和55	農業科2学級の1学級を畜産科に科名変更
昭和56	現在の校舎（第1棟）完成
昭和57	定時制課程廃止
昭和58	地域開発科廃止
昭和59	体育館完成
昭和60	農業科、畜産科を統合し農業科学科を新設
昭和61	創立100周年記念式典挙行
昭和62	塔陵館（同窓会館）改修完成



第20代校長〈平成7・8年度〉

谷口 勝昭さん（金子）

「佐用の子は佐用で育てる」それが地域の文化を築く

昭和35年に佐用高校を卒業してから、教員として町外で過ごしていましたが、平成7年に母校の校長として佐用高校に戻ることができました。

佐用高校は私の学生時代から「地域の学校」として、佐用町出身の生徒たちが多く学んでいます。学力や運動能力はさまざまですが、それぞれの個性がうまく融合し、互いに刺激し合いながら成長するのが本校の特徴です。この環境が生徒たちの精神力を鍛え、社会に羽ばたく力を育む原動力になっていると感じます。

私はずっと、「佐用の子は佐用で育てるべきだ」という思いを抱いてきました。この考えが地域の文化を築き、町の活性化につながり、今の佐用町と佐用高校を支えているのだと信じています。



佐用農蚕学校第1回卒業生（明治42年）

第1章

先人の思いでつながってきた

佐用高校の歴史



昭和38年ごろの校舎



体育館竣工式（平成8年）



体育祭（平成12年）



体育祭（昭和55年）



授業風景（昭和41年）



交通自治班（昭和57年）

出典：佐用高校100周年記念誌

第2章

生徒層の変化と現状

増える進学を選択肢

地域に根ざした学校として、創立以来、多くの生徒が学んできた佐用高校。時代の変化とともに、通う生徒層も少しずつ変わってきています。特に近年、子どもたちの「進学の選択肢」が広がり、その影響を受けています。

ピークは昭和40年

佐用高校の生徒数が最も多かったのは、いわゆる団塊の世代が卒業した昭和40年で、当時の全校生徒数は1,499人に達していました。その後、定時制の廃止や人口減少に伴い学級数が減少し、生徒数も徐々に減少して現在に至ります。

かつては、町内の中学生の多くが佐用高校への進学を選び、町外の高校に進学する学生はわずかでした。

学区再編で姫路へ通学が可能に

近年、佐用高校にとって大きな転機となったのが、平成27年度に実施された「学区再編」です。それまで県内は16学区に分かれており、西播地区から

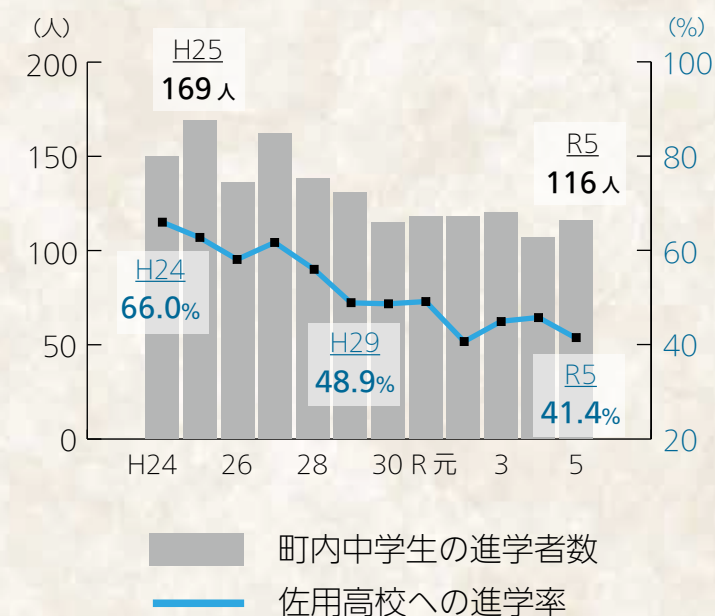
他地区の高校へは進学できませんでした。したが、再編によって5学区に整理され、姫路地区の高校への進学も可能になりました。また、第二志望まで選択できる「複数志願選抜」が導入されたことで、町外の高校を志望する中学生が増えています。

町外の生徒が増加傾向

学区再編前の平成24年度には、町内中学生のうち66%が佐用高校に進学していましたが、昨年度は41%と減少傾向にあります。一方で、現在、佐用高校に通う生徒の5割以上は町外から通学しており、増加傾向にあります。このように進学の選択肢が増えたことで、佐用高校の生徒層にも変化が生まれています。



■町内中学生の佐用高校への進学率



第3章

鉄道なくして佐用高校なし

ともに成長した鉄道

昭和11年に開業した姫新線と、平成6年に開業した智頭急行は、多くの学生の通学手段として欠かせない存在です。「もし鉄道がなければ」「もし高校がなければ」。ともに育まれてきた地域の過去と現在を探ります。

「もし鉄道がなければ」

姫新線と智頭急行は、佐用高校をはじめ、地域の学生たちの通学に欠かせない生命線です。もしこれらの鉄道がなければ、遠方から佐用高校へ通うのは難しく、町外の高校への進学を選ぶ学生たちも、その機会を失っていたかもしれません。

「もし鉄道がなければ」——佐用高校はすでに存在しなかったかもしれません。

「もし高校がなければ」

地域の活性化に貢献する鉄道ですが、人口減少に伴う乗客数の減少が課題となっています。そんな鉄道を支える重要な存在が、通学のために利用する

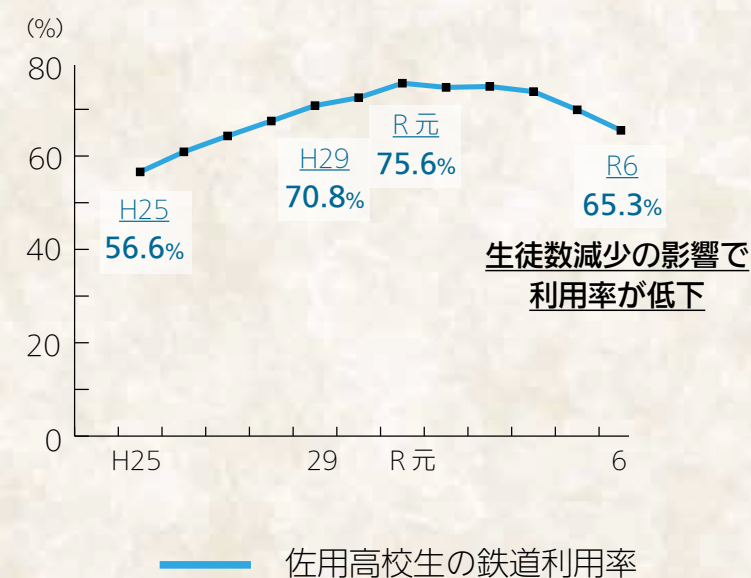
る学生たちです。ここ2年、生徒数減少の影響で佐用高校生の鉄道利用者はわずかに減少しているものの、町外の高校へ通う学生の利用は増加傾向にあります。

欠かせない両者のつながり

町の発展には、多くの要素が必要です。その中でも地域の教育を支える「佐用高校」と、交通の基盤である「鉄道」は、どちらも欠くことのできない存在です。

今では当たり前を感じるこの関係性も、ともに支え合いながら成長してきたからこそ、今日の佐用町があるのではないのでしょうか。

■佐用高校生の鉄道利用率（姫新線・智頭急行）





【代表作】
極上!! めちゃモテ委員長

平成2年卒業 〈普通科〉
にしむら ともこさん(上石井出身)

高校生のころから漫画を描くのが好きで、美術部の仲間と「学生漫画賞」に応募し、賞品をもらったことが心に残っています。卒業後は漫画家をめざして専門学校に進学し、夢を実現しました。

自宅から通える佐用高校を選んだことで、ゆったりとした学生生活を送ることができ、その時間が夢の実現への一歩になったのだと思っています。

自宅から通える環境が
夢の実現につながった



昭和23年卒業
野村 恵康さん(大畠)

私が入学したのは、かつての佐用農蚕学校でしたが、在学中に現在の佐用高等学校へと校名が変わりました。戦後の復興期であった当時、日本全国が食料難に苦しんでおり、勉強よりも学校の畑で芋などの作物を育てる日々が思い出に残っています。

同級生60人のうち、進学したのはわずか6人という時代でしたが、佐用高校で学んだおかげで地元で就職できました。

佐用農蚕学校での学びが
地元での就職につながる



平成元年頃の登校風景

佐用高校で描かれた青春の軌道



平成16年卒業 〈農業科〉
田邊 貴之さん(横坂)

両親は兼業農家でしたが、私は専業農家として生きる道を選び、農業科に進学しました。高校では実習を通じて農業の基礎をしっかりと学び、その経験が農業への情熱をさらに深めました。

そして、9年前に念願のイチゴ専門「田邊農園」を開園しました。これからも、私のイチゴが冬の特産物として佐用町のPRに貢献できるように努めていきたいです。

農業科での学びを基礎に
佐用町のPRを



平成9年卒業 〈普通科〉
岡本 隆根さん(豊福出身)

音楽好きな私は、毎朝の自転車通学中に歌を熱唱していたことをよく覚えています。その青春の1ページが、東京での歌手デビューへと導いてくれました。

当時、佐用高校から東京の大学へ進学するのは珍しい選択でしたが、挑戦して本当によかったと感じています。これからは、都会をめざす後輩たちの支えになればと思っています。

後輩たちが都会で挑戦する
支えになれば

平成22年から佐用高校の同窓会「塔陵会」の会長を務め、今年で14年目を迎えます。私も佐用高校で学び、大学進学のため一度は佐用を離れましたが、卒業後、父が営んでいた印刷会社を継ぐために戻ってきました。私が通っていた当時、大学進学をめざす生徒はまだ半数以下で、多くの仲間が就職を見据えて勉学に励んでいました。特に、家業がある家庭では、高校を卒業して後継者として働く、そんな流れが自然と生まれていたのです。約半世紀にわたり佐用商店街で事業を続けてきた今、佐用高校が町の産業を支える大切な存在であることを改めて実感しています。

佐用高校が町の産業の支えに

これまでに約2万1千人の卒業生を輩出した佐用高校。学校で培った知識や築いた友情を活かし、さまざまな分野で活躍する卒業生たちに、母校の思い出を伺いました。

第4章

佐用高校での学びが財産

今の私がある理由

母校がさらに輝くことを願う

現在、佐用高校の生徒数が減少していることに、卒業生として少し寂しさを感じます。しかし、「佐用高校が元気であれば、町全体も活気づく」と信じています。

これからも同窓会長として、母校がさらに輝き続けるよう、卒業生全員で力を合わせて支えていきたいと思っています。



同窓会長〈昭和44年卒業〉
谷本 学さん(上町)

町とともに進化する高校へ

普通科



佐用町に貢献できる 人材育成を

町内の公共施設を訪問し、役場職員から直接町の現状や課題を聞く機会を設けるなど、地域の課題を深く探求しています。

さらに、見つかった課題に対して「佐用高校生らしい」柔軟な視点を活かした解決策を研究・検討しながら、将来、佐用町に積極的に貢献できる人材の育成をめざしています。



町の課題を考えてみました

空き家の課題を調査し、改修することで高齢者が集える場所として活用する提案をしました。この取り組みを通じて、自分たちが暮らしてきた町の課題を深く知ることができ、町への愛着を深めるきっかけとなりました。



森元和奏さん (佐用町) 古田恵莉さん (佐用町)
岡本姫佳さん (佐用町) 孝橋萌李さん (佐用町)

農業科学科



佐用高校ブランドを 地域に届ける

農業学習の一環として行う草刈り実習では、町の観光施設などの美しい景観を守りながら、地域への理解を深めています。

また、約 1,000 羽の鶏が産む卵を「さよたま」としてブランド化し、地域みなさんに販売しています。この「さよたま」は学校給食にも活用され、町内の子どもたちの食育にも役立っています。



「さよたま」を給食で提供しました

今年初めて学校給食で「さよたま」を使い、幼小中学生に味わってもらいました。視察で訪れた佐用中学校では、生徒たちの「おいしい」という声や笑顔に触れ、とても嬉しく感じました。濃い卵黄とビタミンEの豊富さが特徴の「さよたま」。これからも多くの町民のみなさんに親しんでもらえるよう、活用を広げていきたいです。



大霜陸駿さん (佐用町)

家政科



地域の人との交流で 笑顔届けたい

家庭や地域社会に役立つ知識と技術を学んでいる家政科の特徴を活かして、住民のみなさんと交流しながら、健康寿命の延伸や安全・安心なまちづくりをめざしています。

特に、佐用もち大豆など地域の特産物を使った商品開発に力を入れており、地域の魅力を発信する取り組みを通じて、佐用町全体のPRもしています。



イベントに出店してPRしています

高齢者のお宅にお弁当を届ける「給食サービス」を行いました。献立作りでは栄養バランスに気をつけ、食べてくださる方の健康を意識しました。また、佐用の特産物や佐用高校で育てた野菜を使い、地元ならではの味を大切にしました。この活動を通じて、地域のつながりを実感し、高齢者の健康を支える大切さを改めて感じました。



北川右琉さん (佐用町)

地域と協働し、輝く人材を育成

佐用高校家政科は、令和2年度から3年間、文部科学省の指定を受け、地域と一体となって地域の課題を解決する「協働」のモデルプランに取り組んできました。

この事業を通じて、地域の人と交流する機会がこれまで以上に増えた生徒たちは、目に見えてコミュニケーション能力が向上しました。この成果をさらに広げるため、令和5年度から町の支援を受けて「地域と高校の協働による輝く人づくり支援事業」を立ち上げ、全校生徒が「協働」に参加しています。

佐用を知り、一緒に未来を描く

佐用町は不便な田舎と思われがちで



佐用高校
大塚 幹典 校長

すが、実は交通の便も良く、暮らしやすい場所です。町外から通う生徒も多く、まずは「佐用を知る」ことからスタートしています。その上で、町の現状や課題を理解し、「佐用をどうしていきたいか」を考え、地域との「協働」を実践しています。

今後も、町の特産品を活かした商品開発や、飼育している鶏の卵の販売、高齢者との交流で健康寿命を延ばす取り組みなど、学校だけでなく佐用町全体の魅力アップにつなげていきたいと考えています。

第5章

地域に根ざす高校になるために 輝く人をめざす今

佐用高校は、これまで地域に根ざした学校として町とともに歩んできました。現在は、地域との「協働」にさらに力を注ぎ、町の活性化に貢献するとともに、社会で活躍できる人材の育成をめざしています。



イベントなどで地域の特産物を使った製品を自分たちで販売しています

第6章

現役佐用高校生が語る

私たちの学校の魅力

地域に根ざした伝統ある学びの場で、地元の自然や人とのふれあいから多くを学ぶ生徒たち。部活動や地域との交流を通じて、自分の可能性を広げ、未来への一步を踏み出す彼らの視点から見た佐用高校の魅力とは。

「塔陵祭」が学校最大のイベント

佐用高校生らしさが最も表れるのは、6月に開催される文化祭「塔陵祭」です。特に、3年生が出演するステージは、各クラスが工夫を凝らし、音響や照明にもこだわった見応えあるもので、これまでの学校生活の青春が詰まった後輩たちの憧れの場となっています。普段は控えめな生徒も、この日はばかりは熱気にあふれ、一体となって盛り上がる特別な1日です。

「佐用高校に行きたい!」と 思われる学校をめざして

佐用高校には町外から通学する生徒も多く、入学当初は不安もありましたが、すぐに仲間と打ち解けることができました。また、若い先生方が多く、



生徒会長〈普通科2年〉
神原 緋弥喜さん
(佐用町)

私たちとの距離が近いので、相談がしやすく、一人ひとりに寄り添って丁寧にサポートしてくれます。こうした温かい環境のおかげで、どの学年やクラスも明るく、充実した日々を送ることができています。

現在、町外の高校に進学する友だちや後輩が多い状況ですが、佐用高校には他の高校に負けない魅力があると自信を持っています。私たちが全力で高校生活を楽しむ姿を見てもいい、「佐用高校に行きたい!」と思ってもらえるよう、これからも学校の魅力をさらに高めていきたいです。

New Challenge

マナーアップ動画で 鉄道への愛着を深める

現在、全校生徒の6割以上が利用する鉄道は、佐用高校生にとって欠かせない存在です。しかし、運転士や地域のみなさんから「乗車マナーが悪い」という声が寄せられることもあります。

そこで、生徒会では、乗車マナーの向上を通じて佐用高校生のイメージアップと鉄道への愛着を深める活動に取り組んでいます。駅舎の清掃に加え、昨年からJRの協力を得て啓発動画の制作や車内アナウンスにも挑戦しました。まだ試行錯誤の段階ではありますが、これからも活動を続けていきます。



中心になって取り組む新旧生徒会のメンバー



←啓発動画



←車内
アナウンス

佐用で学び 佐用で育む

ここが私たちの学び舎です





11月3日は
みんなが笑顔になる日

食欲をそそる

文化祭

秋を彩る



佐用町大収穫祭が11月3日に佐用商店街で開催され、約2,500人の来場者でにぎわいました。会場には、新鮮な野菜や特産品の販売、自然薯ご飯や鹿バーガーなど、秋の味覚を楽しむグルメコーナーが並び、食欲をそそる雰囲気になりました。

今年のメインイベントは、佐用鹿青年部と町観光協会が企画した「佐用ご当地グルメ早食い・大食い大会」。町内外から集まった大食い自慢の23人が、予選ではひまわり地鶏の親子丼などの早食い、決勝ではホルモン焼きうどんの大食いでも激しく競いました。

決勝で2位に輝いた大内梨さん（上長尾）は、ゲスト出演のフードファイター三宅智子さんの食べっぷりに圧倒されながらも、「仲間の応援に助けられました。これから大好きなホルモン焼きうどんを愛していきます」と、笑顔で膨れたおなかを押さえていました。

さよう文化祭が、10月31日から11月3日まで、さよう文化情報センターで開催され、多彩なステージや作品が来場者を楽しませました。

3日の芸能発表では、19組が出演して日頃の活動の成果を披露。オープニングを飾った佐用高校家政科のファッションショーでは、高校生が製作した衣装を中学生や日本語学校の生徒、高齢者施設の利用者が身にまとい、観客を魅了しました。

町文化協会の井上正志副会長は「昨年より出演者が増え、華やかな舞台になった。来年はもっと多くの出演者やお客さんが来てくれればうれしい」と期待を語りました。

このほか、作品展示では、197点の力作が並び、訪れた人はじっくりと鑑賞していました。また、2日に開催された文芸大会には、俳句110句、短歌92首が出品され、豊かな感性と磨かれた技が披露されました。

因幡街道・千種川ロングライドin佐用2024

自転車で感じる佐用の魅力

今年も、11月10日に「因幡街道・千種川ロングライドin佐用」が開催され、全国各地から515人のライダーが集まり、秋の佐用路を楽しみながら景色やグルメを堪能しました。

因幡街道や千種川でつながる佐用町、宍粟市、美作市、西栗倉村の県境4市町村を自転車で駆ける「いなちくロングライド」が、11月10日に開催されました。

今年は13歳から84歳までの515人が参加し、秋深まる山々の紅葉を楽しみながら、チェックポイントでグル

メを堪能し、92kmのサイクリングを満喫しました。

姫路市から参加した田麿亜希さんは、「佐用はサイクリングがしやすいので普段から来ていますが、大会には初めて参加しました。ご当地グルメが盛りだくさんで、お腹がいっぱいになりました」と満面の笑顔で話しました。



第3回きゅうしよくメニューコンテスト

食育で郷土愛を深める

町学校給食センターが実施した「第3回きゅうしよくメニューコンテスト」で、多くの応募の中から選ばれた優秀レシピを紹介합니다。ぜひ、ご家庭でも作ってみてください。

町学校給食センターは、子どもたちが地元特産品への愛着を深め、食育を推進するため、地産地消を取り入れた、「第3回きゅうしよくメニューコンテスト」を開催しました。

したと話す上月小（同センター）栄養教諭の村上志穂さんは、「昨年までは佐用もち大豆やひまわり油を使ったテーマだったが、今年は地元野菜と特産品へ幅を広げて実施したので難しかったと思う。その分、佐用町のいろんな特産品を知る良いきっかけになったのでは」と、食育による地産地消の推進への手応えを話しました。

今年のテーマは、「地元野菜と特産品を使用した『副菜メニュー』」。もち大豆やジャソピーマン、ひまわりオイル製品など、特産品がふんだんに使われたメニューが、町内の小中学生から149件の応募がありました。

昨年が続いて力作ぞろいだったことから、審査が難航



▲詳しいレシピは、町ホームページに掲載しています



もち大豆の
あっさり梅まよ和え

光都農業改良普及センター所長賞
中井 希優さん（上月中2年）



もち大豆ポテトサラダ

給食センター賞
藤本 七那さん（上月小6年）



佐用のうまみたっぷり
なす・ピーマン・油あげ・
もち大豆の焼きびたし

佐用町長賞
敏森 穂乃夏さん（南光小6年）



もち大豆のサラスパ

元気工房さよう賞
高見 眞悠さん（上月中2年）



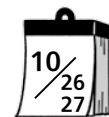
野菜たっぷりおひたし

元気工房さよう賞
竹野 初月さん（上津中3年）



こんにゃくとピーマンの
甘辛炒め

JA兵庫西佐用営農生活センター長賞
小林 心結愛さん（佐用小1年）



サウナの聖地になる第一歩

カンサイサウナフェスティバル 2024



自然に囲まれた川辺で爽やかなクールダウンタイム

関西を代表する人気サウナ施設が南光自然観察村を貸し切り、「カンサイサウナフェスティバル」を開催しました。

同施設のサウナを利用した参加者は「川を水風呂に使い、大自然の中でクールダウンできるなんて最高！佐用がサウナの聖地になれば」と、「ととのった」すっきりした表情で話しました。



歴史を知り愛着を深める

武家屋敷マルシェ & ウォーク 2024



乃井野田吾作会の獅子舞がオープニングを飾りました

三日月地域づくり協議会は、乃井野に残る歴史的な武家屋敷の魅力を広めようと「武家屋敷マルシェ&ウォーク」を開催しました。

同協議会の藤本正文会長（三日月）は、「天候が心配される中、多くのかたにお越しいただけてうれしい。今後も地域の人が集う場を提供し続けていきたい」と語りました。



若返れたふれあい秋祭り

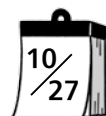
平成福祉会ふれあい秋祭り



園児の元気いっぱいなダンスが会場を盛り上げました

平成福祉会は「ふれあい秋祭り」をハイムゾーンで開催しました。

オープニングを飾ったのは南光保育園の合唱とダンス。この日を心待ちにしていた同施設の利用者、衣笠安子さん（安川）は「子どもたちにつられて一緒に踊ったら、少し若返った気がする」と、満面の笑みを浮かべていました。



幕山地域のにぎわいづくり

幕山ふれあい祭り



獅子舞も登場。頭を噛んでもらい無病息災を願いました

幕山地域づくり協議会は、地域住民の交流を深めるために「幕山ふれあいまつり」を旧幕山小学校グラウンドで開催しました。

会場には 200 人近くが集まり、活気に満ちたひとときに。同協議会の尾上卓儀さん（福吉）は、「これからも地域のみなさんと一緒に幕山を盛り上げていきたい」と交流を楽しんでいました。



災害の怖さを知り備える

佐用小学校「防災まち歩き」



最後は自分たちの班が気付いたことを発表しました

佐用小学校 4 年生が、平成 21 年に町を襲った災害の被災現場を訪れ、防災の重要性を学ぶ「防災まち歩き」に参加しました。

学校に戻った後、児童たちは気付いたことを話し合いました。山根芽久さん（上町）は「水害の怖さを知り、いざという時はすぐ避難して家族の命を守りたい」と、防災意識を高めました。



認知障がいの正しい理解を

佐用郡民フォーラム



自分と家族の将来のためにと約 100 人が参加しました

佐用郡医師会と町は、軽度認知障がいへの正しい理解を深めるため、「佐用郡民フォーラム」をさよう文化情報センターで開催しました。

講師を務めた県立リハビリテーション西播磨病院の榎林哲雄さんは、「認知症の新薬は開発されましたが、何より大切なのは早期発見。悩まずに早めに相談してください」と助言しました。



少しでも早く走れるように

小林祐梨子ランニング教室



走る楽しさを感じながら、懸命に練習しました

町スポーツ協会は、陸上競技の長距離でオリンピックに出場経験のある小林祐梨子さん（小野市出身）を迎え、若あゆグラウンドでランニング教室を開催しました。

最後の長距離走で息を切らしていた子どもたちも、小林さんから速く走るコツを教わり、充実した表情で手応えを感じていました。



万博を盛り上げるために

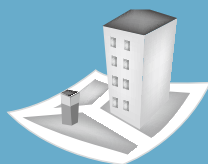
西播磨フロンティア祭 2024



皆田和紙の体験会は行列ができるほどにぎわいました

県民局を中心とした西播磨地域の自治体は、来年開催される「大阪・関西万博」に向けて地域の魅力を発信しようと、「西播磨フロンティア祭」を播磨科学公園都市で開催しました。

会場では、万博のひょうごフィールドパビリオンで出展予定の皆田和紙保存会が紙すき体験を行うなど、万博を PR しました。



ひょうご家計応援キャンペーン プレミアム付デジタル商品券
「はばたん Pay +」第4弾が始まります
monthly information



食 料品の値上げなど長引く物価高騰に直面する家計を応援するため、スーパーやコンビニなどで利用できるお得なプレミアム付デジタル商品券を兵庫県が販売します。



1口 5,000円購入 (デジタル商品券) ➡ **6,250円**

1人4口まで
購入可能

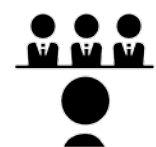
プレミアム率
25%

最大5,000円
お得に

4口 20,000円購入 ➡ **25,000円**

- 対象
兵庫県在住者
- 募集期間
11月18日(月)～12月13日(金)
- 利用期間
12月24日(火)～令和7年2月28日(金)
- 申込方法
スマートフォンによる申込み
※応募多数の場合は抽選となります
詳しくは、特設サイトをご確認ください。

専用コールセンター
☎078-371-2960



令和7年度採用 播磨高原広域事務組合職員
技術職（社会人経験者）を募集します
monthly information



播 磨高原広域事務組合では、民間企業などでの職務経験や実績を活かして、住民生活に欠かせないライフラインを守りたいという強い意欲と高い志を持つ人材を求めています。

- 職務内容
播磨科学公園都市の上下水道施設の設計、施工および維持管理業務
- 募集人数
若干名
- 受験資格
昭和59年4月2日以降に生まれた人で学校教育法による高等学校以上を卒業し、土木・電気・機械のいずれかの専門知識を有する人
- 受付期間
令和7年1月10日(金)まで ※郵送必着
- 第1次試験日
令和7年1月19日(日)
- 受付・問合せ
播磨高原広域事務組合 総務課
受付時間：午前9時～午後5時

播磨高原広域事務組合
☎0791-58-0575



おもてなしと全力プレー
第33回ビスラカップ少女バレーボール大会



町内で活動する6年生が歓迎のあいさつをしました

少女バレーボールチームの強豪が集う「第33回ビスラカップ少女バレーボール大会」が2日間にわたり開催されました。

今年の大会には関西圏から70チーム、約700人が参加。町内の3チームは、佐用に来てくれたチームをおもてなししつつ、試合では元気いっぱい全力プレーで会場を沸かせました。



癒しの音色に身を委ねる
夜の図書館 桐子・二胡コンサート



募集した定員50人がすぐに埋まる盛況をみせました

町立図書館は、両親が佐用町出身で、国内外に多くのファンを持つ二胡奏者・桐子さんのコンサート「心とからだが休まる二胡の時間 in 夜の図書館」を開催しました。

薄暗く幻想的な空間の中、中国の伝統的な弦楽器・二胡の音色に、来場者は目を閉じて音楽に身を委ね、癒しのひとときを楽しみました。



歌声が祭りに花をそえる
佐用都比売神社 秋季例大祭



奉納のど自慢大会で優勝した藤木正助さん（下長尾）

今年も佐用姫さんの秋祭りが開催され、多くの人でにぎわいました。

昨年からはまった「奉納のど自慢大会」には8人が参加し、自慢の歌声を披露。小学4年生ながらピアノの弾き語りに挑戦した岡本来々さん（円応寺）は、「緊張したけれどもできた」と、ほっとした表情を浮かべていました。



有事に備えて技術を高める
佐用・上月地域 消防団合同中継訓練



1mを超える距離をホースでつなぎ放水訓練をしました

佐用・上月地域の消防団は、町民の防火防災意識と消防団員の技術の向上を図るために「合同中継訓練」を実施しました。

矢内正敏消防団長（横坂）は、「分団同士が連携し、トラブルにもうまく対処できた。今後も訓練を重ね、みなさんの安全と安心を守っていきたい」と意気込みを新たにしました。



統計調査は私たちの生活をより良くするための基盤です

統計調査員に登録してみませんか？

monthly information



統計調査の結果は、政府の政策決定や国民の意思決定などにも幅広く利用され、社会の発展を支える基礎となっています。町では、この統計調査に欠かせない調査員や指導員を随時募集しています。

■主な仕事

- ①担当調査区の現地確認
 - ②対象世帯や事業所に調査票を配布
 - ③調査票の回収、点検、整理
- ※従事期間は、調査ごとによって異なりますが、おおむね2か月程度です。

■報酬

調査活動に従事した対価として、調査ごとに国の基準に基づいた報酬が支払われます。調査の種類や受け持ち件数などによって金額は異なりますが、1つの統計調査で、2～5万円程度です。

調査活動中に災害にあった場合（けがや事故など）は、公務災害として補償されます。

■応募資格

- ・責任をもって調査事務に従事できる人
- ・原則として20歳以上の人
- ・調査で知りえた情報を他に漏らさない人（秘密厳守できる人）
- ・税務、警察、選挙に直接関係のない人
- ・暴力団員その他の反社会的勢力に該当しない人

■今後実施予定の統計調査

令和7年度 国勢調査
令和8年度 経済センサスー活動調査

問 情報政策課 ☎82-0690



ごみの直接持込は前日までに予約をお願いします

年末年始の業務日にご注意ください

monthly information



年末年始は大掃除などで、クリーンセンターが大変混み合います。品目により持込先が異なりますのでご注意ください。また、ごみの持込には前日までの事前予約が必要です。必ず電話予約をお願いします。

■埋立ごみ以外

（もえるごみ、もえないごみ、粗大ごみ、布類、紙類、ビンなど）



にしはりまグリーンセンターへ

●年末年始の休業日

12月31日⑩～1月3日⑤

●搬入受付時間（月曜日～土曜日）

午前8時30分～午後4時30分

●持込予約 ☎79-8550

■埋立ごみ（陶器・ガラスなど）

使用済小型家電



佐用グリーンセンターへ

●年末年始の休業日

12月30日⑨～1月3日⑤

●搬入受付時間（月曜日～金曜日）

午前9時～正午、午後1時～4時30分

●持込予約 ☎82-0293

問 佐用グリーンセンター ☎82-0293

Pick up

早期の発見・通報と初期消火で延焼を防ぐ

4人の勇敢な町民に感謝状が贈られました

8月26日に三日月地域で発生した建物火災で、迅速な発見・通報・初期消火により延焼を防いだ4人の町民に対し、西はりま消防組合消防長から感謝状が贈られました。

佐用消防署の丸田弘造署長は、「発見が遅れていれば、全焼してもおかしくない火災だった。消防団経験者が協力者の中にいたことも、迅速な初期消火が実現できた要因の一つ」と、4人の勇敢な行動を称賛しました。さらに、「火災が発生したときには、一人の力では限界がある。迅速に周囲へ知らせ、協力を得ることが初期消火への近道になった」と、チームワークの重要性を強調しました。



森川稔さん（大坪） 水本義夫さん（桑野） 衣笠俊博さん（安川） 橋本泰昌さん（西徳久）



寒い季節が訪れました

寒さから水道管を守りましょう

monthly information



寒さが厳しくなる12月から2月下旬ごろまでは、水道管や蛇口などの給水装置の凍結が多くなる時期です。寒さに備えて水道管の防寒対策をお願いします。



■修理費用は自己負担です

家に引き込んだ水道管や蛇口などは個人の所有物のため、破損してしまうと所有者が修理費用を負担しなければなりません。

■露出している水道管は要注意！

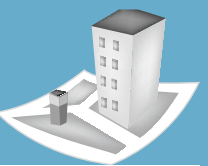
露出している水道管は、凍結しないように保温材（布きれ・発泡スチロールなど）で覆いましょう。その際、濡れないようにその上からビニールテープを巻きましょう。

■長期不在時は、水抜きを忘れずに

長期間水道を使わない場合や空き家を所有している場合は、凍結防止のため宅内の水道を水抜きし、止水栓を閉めましょう。

また、湯沸かし器などがある場合は、給水管などが凍結する恐れがありますので、水道管と同様に水抜きを忘れずにおこなってください。

問 上下水道課 ☎82-0481



過去の番組を流す大好評のコーナー「リクエスト放送」

佐用チャンネルのリクエストを募集します

monthly information



佐用チャンネルでは、時々、過去に放送した番組を再放送しています。視聴者からは「懐かしい映像が見られてうれしい」と大好評のこの企画。あなたの思い出の映像を、ぜひ教えてください。

リクエスト放送企画

「もう一度見たい」をリクエスト

「昔見たイベントの番組をもう一度見たい」「10年前の今頃はどんな出来事があったの」など、気になる番組のリクエストをお待ちしています。
※番組の内容によっては放送できない場合もありますのでご了承ください。



◀リクエストはこちらから



もっと魅力ある番組を作るために

あなたの感想を教えてください

佐用チャンネルの番組に対する、みなさまからのご意見やご感想を募集しています。お寄せいただいた感想などは、今後の番組制作の参考にさせていただきます。皆様からの貴重なご意見・ご感想をお待ちしています。



◀ご意見はこちらから



問 情報政策課 ☎ 82-0690



12月のスマホ教室と相談会

問 情報政策課 ☎ 82-0690

●日 時 12月9日(月)、10日(火)

●場 所 上月支所 多目的室1

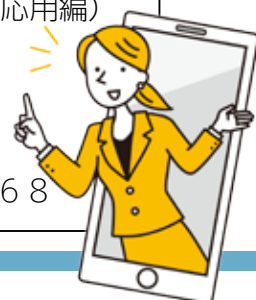
●内 容
(入門編) スマホでカメラを使おう
(応用編) 知っておきたいカメラの活用
(相談会) 困りごとや使い方の相談会

●内 容 10:00～ スマホ教室(入門編)
11:00～ 相談会
13:30～ スマホ教室(応用編)
14:30～ 相談会

●定 員 各回 10人

●予約先 ドコモショップ穴栗店

☎ 0120-630-068



スマートフォンを持っていない人でも参加可能

スマートフォン体験型講習会を開催します

monthly information



スマートフォン(以下、スマホ)を持っていない人や、使いこなせていない人向けの「体験型講習会」を町内各地で開催します。『百聞は一見にしかず』、ぜひスマホを手にとって触ってみてください。

●対象者

町民であればどなたでも可

●内 容

- ①インターネットを使ってみよう
- ②スマートフォンを安全に使うための基本的なポイントを知ろう
- ③メッセージアプリ(LINE)を使おう
- ④全国版救急受診アプリ(Q助)で病気やけがの緊急度を判定しよう
- ⑤ハザードマップポータルサイトでさまざまな災害のリスクを確認しよう
- ⑥デジタルリテラシーを身につけて、安全安心にインターネットを楽しもう
- ⑦地図アプリを使おう
- ⑧マイナンバーを健康保険証として利用しよう・公金受取口座の登録をしよう

●開催日程

月日	場所	時間	講座内容
12/13 (金)	佐用町役場 本館1階 会議室101	9:30~11:45 13:30~15:45	① ② ③ ④
12/19 (木)	佐用町役場 本館1階 会議室101	9:30~11:45 13:30~15:45	① ② ③ ⑤
12/20 (金)	佐用町役場 本館1階 会議室101	9:30~11:45 13:30~15:45	① ② ③ ⑥
1/27 (月)	佐用町役場 南光支所	9:30~11:45 13:30~15:45	② ⑦ ③ ⑧

●参加費

無料

●申込み

受付窓口は「ドコモショップたつの店」です。受付の際は「佐用町スマートフォン講習会の件」と伝えてください。

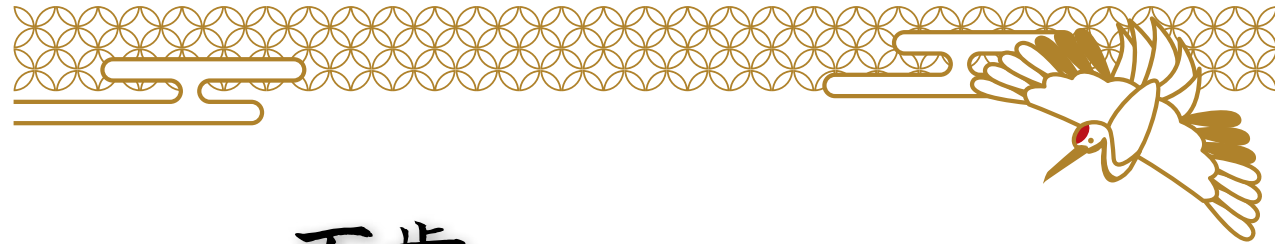
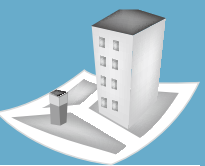
電話番号 **0120-079-164**

●受付時間 午前9時から午後6時



月日	場所	時間	講座内容
1/28 (火)	佐用町役場 上月支所	9:30~11:45 13:30~15:45	② ⑦ ③ ⑧
1/29 (水)	佐用町役場 三日月支所	9:30~11:45 13:30~15:45	② ⑦ ③ ⑧
1/30 (木)	佐用町役場 本館1階 会議室101	9:30~11:45 13:30~15:45	② ⑦ ③ ⑧

問 情報政策課 ☎ 82-0690



百歳 バンザイ

100歳の誕生日を迎えたかたを紹介します。今月は大正13年10月生まれのかたです。



中藤 貞雄さん（栄町）



大榎 栄さん（横浜）



池田 トヨコさん（下長尾）

西はりま 天文台だより

第43回 宵の明星「金星」



西はりま天文台の望遠鏡で見た
昼間の金星

12月になると日の入りが早くなり、すぐに暗くなります。この時期、西の空に明るく輝き、存在感を増しているのは金星です。日没後2時間くらいは時間帯を「宵」と呼び、この時間帯に見られる金星は「宵の明星」とも呼ばれます。

金星は地球と同じく太陽の周りを回る惑星ですが、地球よりも太陽に近い軌道を回っているため、真夜中には見られません。主に太陽の近くに見られることが多いのですが、これから徐々に太陽から離れていき、明るさも増していきます。

来年の3月上旬までは、宵の時間帯で最も目立つ存在となります。この頃の金星を望遠鏡で見ると、半月状から三日月状へと形を変え、大きくも地球への接近に伴って大きく見えるようになります。

西はりま天文台では週末に昼間の星の観察会を行っており、60倍望遠鏡で金星を見ることが出来ます。ぜひ変化していく金星の様子をご覧ください。

兵庫県立大学 西はりま天文台

准教授 本田敏志



12月は「STOP 滞納 徴収強化月間」です

町税や公共料金は納期限内に納めましょう

monthly information



町税や使用料が未納となっている個人や法人などに対して督促状や催告書を郵送し、早期に納付いただくようお知らせをしています。連絡も納付もないケースを対象とした徴収の強化に取り組みます。

■税金は行政サービスに使われています

町税や使用料は、町にとって大切なお金のもとになっています。この収入をもとに、生活に役立ついろいろな行政サービスが行われています。

支払いが遅れると、期限内に納付した人との公平さが保たれないだけでなく、町のお金が足りなくなって、サービスを十分に行えなくなることもあります。

■12月は取り組みを強化します

佐用町と兵庫県は、12月に未納の税金を集める取り組みを強化します。納付が遅れている人には催告書を送り、それでも納付や連絡がない場合は、法律に基づき差押えなどの措置をとることがあります。

■督促手数料と延滞金が加算

町税などが納期限までに納付されないと、もとの税額に督促手数料と延滞金が加算されます。また、督促状を出した日から10日が過ぎても納付がない場合は、滞納処分の対象となります。

■給与や財産、預貯金などが差押えの対象

滞納処分は本人の意思に関係なく、法律に基づいて預貯金、給与、自動車、不動産などの財産が調査されます。勤務先にも調査書が送られます。自主的な納付を求める文書が自宅に送られますが、納付がない場合は、給与や財産、預貯金などを差押えます。

また、自宅の捜索を行い、差押えた財産はインターネット公売などで売却して、滞納した町税の支払いに充てます。

■納付が困難な時は早めに相談してください

災害や失業、病気などの理由で、一度に納めることができない場合は、申請することで徴収猶予や換価の猶予、延滞金の減免が受けられることがあります。納期限までに納付が難しいと思われたら、そのままにせず、早めに税務課へ相談してください。

■滞納処分までの流れ

納税通知書の発送
(納期限と税額の決定)



督促状の発送
(納期限までに納付がない場合)



電話催告・文書催告
(督促状発送後にも納付がない場合)



財産調査
(督促や催告をしても納付がない場合)



差押え（滞納処分）



換価
(不動産の公売や給与などの取り立てにより、滞納町税などに充てられます)

税務課 ☎ 82-0662

健康カレンダー

もの忘れ・心のケア相談など

場所：町保健センター

月日	内 容	時間
12/19 1/16	デイ・ケア (精神障がい者社会復帰訓練事業)	13:30～15:30

問 健康福祉課 ☎ 82-0661

場所：龍野健康福祉事務所

月日	内 容	時間
1/10	こころのケア相談（要予約）	13:00～15:00
12/10 1/14	エイズ・肝炎相談（要予約） HIV・肝炎ウイルス検査（要予約）	13:15～14:30
1/20	専門的栄養相談（要予約）	10:00～11:30

問 龍野健康福祉事務所 ☎ 0791-63-5687

場所：町保健センター

月日	内 容	時間
12/26	がんサロン・さよう（予約不要） がんピアサポート （個別相談・要予約）	14:00～16:00

問 はまなすの会 ☎ 079-277-2764
健康福祉課 ☎ 82-0661

場所：町保健センター

月日	内 容	時間
12/19	もの忘れ相談（要予約）	13:30～
12/25	認知症家族の会「ひまわり」	13:30～15:30

問 高年介護課 ☎ 82-2079

赤ちゃんとお母さん

場所：さよう子育て支援センター

月日	内 容	時間
12/9	0歳児教室（7か月～1歳未満）	9:50～11:00
	0歳児教室（2か月～6か月児）	10:20～11:30

問 健康福祉課 ☎ 82-0661

※乳幼児の健診や健康相談は、対象者に郵便でお知らせをしています。

休日救急当直医 12月

月日	医療機関名	電話番号
12/8	尾崎病院	77-0221
12/15	岡本医院	88-0605
12/22	佐用中央病院	82-2154
12/29	佐用共立病院	82-2321
12/30	佐用中央病院	82-2154
12/31	佐用共立病院	82-2321

感染症が流行しやすくなる時期になりました

感染対策をしっかりと、元気に年末年始を迎えましょう

年 年末年始を安心して迎えるために、今一度、感染対策を見直しましょう。正しい手洗いやマスク着用、適切な換気を心がけ、家族や友人と楽しく過ごせる準備を整えましょう。

■感染症が流行した1年

今年は、「人食いバクテリア」として話題になった劇症型溶血性レンサ球菌感染症が、統計開始以来で最多の発症数となりました。さらに、マイコプラズマ肺炎も過去最多を記録し、手足口病も過去5年の同時期と比べて非常に多くの患者が報告されるなど、さまざまな感染症が流行した1年になりました。

■感染症が流行する時期です

これから3月ごろまでは、寒さと乾燥が続く季節です。この時期はウイルスや細菌による感染症が流行しやすくなるため、感染予防を徹底し、体調管理に気を配りましょう。

どの感染症でも基本は同じ **正しい感染対策をしましょう**



流水とせっけんによる正しい手洗い



適度に換気をする



けがをした時
流水洗浄と消毒
（劇症型溶血性レンサ球菌感染症などに効果的）



正しくマスクを着用する



共有のタオルは使用せず、
自分専用のタオルを使う



生活習慣を整える
（免疫力を低下させないため）

column

こんにちは歯科衛生士です

オーラルフレイルを予防しましょう



当てはまることはありませんか。予防として、柔らかいものばかりでなく、噛みごたえのある食材を意識して食べ、歯みがき後はしっかりとうがいをしてください。

- ☑ 口が乾きやすい
- ☑ 舌がもつれることがある
- ☑ 食べこぼしが増えた
- ☑ 硬いものが噛みにくい
- ☑ お茶や汁物でむせることがある
- ☑ 口の中に食べ物が残りやすい

まずは、オーラルフレイルのチェックをしてみましょう。

いつまでもおいしく食べ、家族や友人と楽しいおしゃべりを続けるために、口の健康はとても大切です。年齢とともに唇や舌など口周りの筋肉が衰え、硬いものが噛みにくくなったり、食事中にむせやすくなることもあります。ささいな衰えに気づいたら、毎日口を清潔に保ち、「口の体操」で食べる・飲み込む力をキープしましょう。

問 健康福祉課 ☎ 82-0661

問 健康福祉課 ☎ 82-0661

お知らせ information

マイナンバーカード受付 今月の日曜開庁日

- 日時 12月8日⑩
午前9時～午後3時
- 場所 住民課
- 住民課 ☎82-0660

子どもの 年末年始の急病時の対応

年末年始に緊急に病院へ行く必要があるか迷ったときは、次の電話相談窓口を活用しましょう。

県子ども医療電話相談

☎ # 8000
▼ダイヤル回線やIP電話の場合
☎ 078-304-8899

(月曜日から土曜日は午後6時から翌朝8時まで。日曜・祝日・年末年始は午前8時から翌朝8時まで)。

播磨姫路小児救急医療電話相談

☎ 079-292-4874
(月曜日～土曜日の午後8時から午前0時まで。日曜・祝日・8月15日・年末年始は午前9時から午後6時、午後8時から午前0時まで)

『誰か』のことじゃない 12月4日から10日は 第76回人権週間

「基本的人権」は、人間が人間らしく生活するために、生まれたときからだれもが持っている権利です。

「思いやりの心」や「かけがえのない命」について、もう1度考えてみましょう。

●生涯学習課 ☎82-3336

編集後記

年に一度の大型特集では、少子化の影響を受けながらも地元根ざして歩み続ける「佐用高校」にスポットを当てました。取材の合間、佐用高校卒業の知人たちとの会話の中で「どんな思い出があるの?」と聞くと、次々に懐かしいエピソードが語られ、みんなの青春がそこに詰まっていることを感じました。この記事を通じて、佐用の地に高校があり、そこで過ごした青春があったからこそ、今の自分があるのだと感じられるかもしれません。ぜひページをめくりながら、そんな思いに浸ってみてください。⑩

個人情報のため非公開

名前

保護者
行政区

お誕生おめでとう

10月11日から11月10日届出分(敬称略)
戸籍上の漢字が表記できない場合があります

戸籍の窓口

11人のうごき

11月10日現在()内は前月比

人口	14,778人	(-24)
男	7,137人	(-4)
女	7,641人	(-20)
世帯数	6,772戸	(-2)

出生	3人	死亡	28人
転入	21人	転出	20人

名前

年齢
行政区

お悔やみ申し上げます

個人情報のため非公開

図書館

今月の新着図書から司書がおすすめする3冊を紹介します

新着本情報

『老いは孤立を誘う』

- ▶著者 山口道宏
- ▶出版 はる書房



コロナ禍を経て浮き彫りになった老いと孤立の実態と問題点を明示。課題に取り組む自治体の実例を紹介し、支援する・される関係の再構築を提唱する。

『アレの正しい使い方図鑑』

- ▶著者 東京トリセツ研究会
- ▶出版 山と溪谷社



電卓のM+ ボタンの使い方は? キッチンばさみのギザギザは何? 知っているようで知らない道具の正しい使い方を紹介。

『手仕事の世界』

- ▶著者 有吉玉青 / 文
黒澤淳一 / 画
- ▶出版 彩流社



作家と画家が、江戸小紋、雛人形、七宝など伝承工芸職人38の工房を訪ねた取材連載記事を書籍化。その技芸の粋に迫る。

Library info

☎82-0874

開館時間 午前10時～午後6時
月曜日・祝日休館

図書館からのお知らせ

12月、1月の休館日

- 12月 9.16.23.28～31
- 1月 1～4.6.13.20.27.31



クリスマスおはなし会



- 日時 12月22日⑩
午前10時30分～
- 場所 さよう文化情報センター
- 対象 年長～小学生
- 定員 10人
- 参加費 無料
- 申込み 図書館のカウンターでお申込みください。

年末特別貸出



12月14日①～27日⑤

貸出冊数制限なしで4週間借りられます。

おはなし会

■ボランティア

「あそばせ隊」

- 対象 幼児・小学生
- 日時 毎週土曜日
午後2時～2時30分



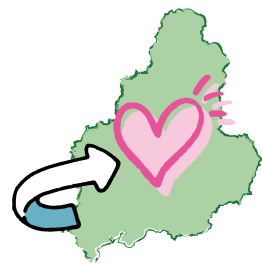
■図書館司書

【小さい人(5歳以上)】

- 日時 毎週日曜日
午前10時30分～11時
- 12月のおはなし
「こびととくつや」

【大きい人(小学3年生以上)】

- 日時 毎週日曜日
午前11時～11時30分
- 12月のおはなし
「とまらないくしゃみ」



Uターンで活躍する若者たち

私が佐用を好きな理由

Vol.3



たき接骨院 瀧 重樹(34) 横坂

町民の健康を支える接骨院に

佐用インターから国道373号を北に進むと、右手に新しい建物が見えてきます。今年5月に開院した「たき接骨院」です。瀧重樹さんが運営するこの接骨院は、地元住民の健康を支える場所として評判を集めています。

瀧さんは佐用高校を卒業後、大阪の専門学校で柔道整復師の資格を取得し、そのまま大阪の接骨院で経験を積んでいました。しかし、28歳のとき、両親が営む中華料理店を継ぐために地元へ戻ることを決意します。3年間、父親のもとで料理を学びながら働く中で、「せっかく取得した資格を活かしたい」という思



開院した接骨院の前で「目印は樹樹の横です」とほほ笑む瀧さん

いが再び芽生え、接骨院の開業をめざすようになりました。

そして、夢だった「たき接骨院」を開業することができました。開業の理由を瀧さんは「生まれ育った地元のみなさんが健康で過ごせるようにサポートしたい」と語ります。

開院当初はあまり知られておらず、患者さんは少なかったものの、口コミが広がり、今では小学生から90代までの幅広い年齢層の患者さんが訪れています。清潔感のある院内と、丁寧な施術が評判のようです。

将来的には、デイサービスやパーソナルジムなど新しい事業にも挑戦したいと考えている瀧さん。「地域に根ざした接骨院をめざしています。地元のみなさんにもっと気軽に来てもらえたら」と、明るい笑顔で語ってくれました。

★あなたの周りで活躍している若者はいませんか。情報をお待ちしています。

情報政策課 082・0690

